1章　総合問題1

問題

【1】

解答

（1）3rd　**f**　5th　**a**　（2）**c**　（3）①　occasionally　③　wrist

（4）**b**　（5）リリーは香水を使わなかったということ。(19字)

解説

（1）空所の前の節が she *never* … となっており，与えられた語の中に nor があることに注意する。'not（などの否定語）A ＋ nor B' で「A も B も…ない」という A，B の両方を否定する表現になる。nor の後に節がくる時には 'nor ＋（助）動詞＋主語' の語順になるので，空所に入る表現は nor did she … の形で始まるはず。did she の後にくるのは動詞の原形だから，consider である。また，consider は consider …ing の形で「…することを考える」の意になるので，consider asking him（to …）で「彼に（…するよう）頼むことを考える」となる。完成した英文は，nor did *she* consider *asking* him（to bring …）である。「彼女は（チェンの働いているレストランをのぞくこともなかったし）買い物を家へ持って帰ってもらうように彼に頼もうと考えることもなかった」となる。*cf.* I can*not* go, *nor* … I want to.（私は行けないし，行きたいとも思わない。）

（2）この段落はチェンが稼いでくるお金の使い方について説明したもの。空所の前の Lily could have had more は more の後に money を補って読む。仮定法過去完了の文で，「リリーは（もし要求すれば）もっと多くのお金をもらえただろう」という意味である。空所の後の but 以下は「リリーはいつも喜んで受け取ったが，自分から余分なお金を要求することはなかった」という意味。ここも the extra の後に money を補って考えるとわかりやすい。こういうリリーに対して夫のチェンが「時々（sometimes）したこと」と言えば，**c** の offered（(お金）をあげようと言った）であろう。ここも offered *more money* と補って考える。

（3）

①　この発音記号に合うのは occasionally（時々）。リリーとムイはいつも質素（thrifty）な食事をしていたが，時にはオムレツにエビが入って少し贅沢になることがあったということ。

③　この発音記号から wrist（手首）を思いついただろうか。後の where her slow pulse throbbed（鼓動がゆっくりと脈打っている）からも「手首の下側」と見当がつく。

（4）ここは，リリーがこっそり貯めた 393 ポンドのお金について述べた部分。keep O secret で「O を秘密にしておく」となるが，ここでは kept の直後に secret がきている。O（目的語）が長い時には keep secret O のように O が後に置かれることがあり，ここもそのパターンである。ここでは the（　　）of the fragrant reserve が

目的語である。the fragrant reserve（香りのよい蓄え）とはリリーが貯めたお金（紙幣）のことで，ジャスミンティーの缶に入れておいたので香りが移ったのである。選択肢はそれぞれ，**a**「総額」，**b**「存在」，**c**「重要性」，**d**「場所；在り処」の意。**a** や **d** でもよさそうだが，第３段落冒頭に「チェンが気づかなかったことは，リリーが家計費のうちの約６ポンドしか使わなかったということだ」とあることから，チェンはリリーが毎週もらう 10 ポンドのうち約６ポンドだけを使い，残りの約４ポンドを自分で貯めていることを知らなかったということがわかる。よって「リリーはお金の存在を秘密にしていた」となる **b** が正解。

（５） innocent は「無邪気な」の意を覚えている人が多いと思うが, be innocent of ～ で「～がない；～を欠いている」という意味を表す。perfume は「快い香り；香水」の意。直訳すると「彼女自身の身体は何の香りもなかった」となるが，これはつまり「香水をつけなかった」ということ。

全訳

リリーは買い物はすべてバーント・オーク区の大きなスーパーで済ませ，ロンドン中心部の中華街にあるデパートに行くことはほとんどなかった。たまに行った時も，彼女はチェンが働いている大きなレストランの窓をのぞき込むことは決してなかったし，買った物を家に持って帰ってほしいと頼んでみようかと考えることもなかった。

リリーの夫は手取りで５ポンド紙幣６枚の給料のうちから，家計費として週に 10 ポンドを現金でリリーに与えた。1960 年代の初めとしては悪くない収入だった。リリーはもっと欲しいと思えばもらうこともできたし，チェンがもう少しあげようと言ってくれることもあった。そんな時リリーはいつもそれを喜んで受け取ったが，自分から余分なお金を要求することは決してなかった。残りの 20 ポンドのうち２ポンドが衣服費とガス代にまわされ，チェンが自分の小遣いとして２ポンド取り，６ポンドを家賃として払い，10 ポンドを両親に送金した。

チェンは，リリーが家計費として約６ポンドしか使っていないなどとは思ってもいなかった。彼女とムイの昼食はキャベツとご飯と卵２個のオムレツという質素なもので，時たま，軽く油をひいたフライパンに卵を全部入れてつぶしたすぐ後に小エビを４，５匹放り込んで贅沢を楽しんだ。彼女はそれから，大きな木の箸で殻を摘み出し，最後のかけらを取り除くとオムレツの出来上がりだった。チェンが帰宅するちょっと前に女たちはそれぞれ厚くスライスしたパンを食べることがあった。マン・キーは母親と叔母と一緒に食事をし，よく食べた。彼にはレバーと魚の切り身が出され，それは小さかったが２人の女たちの食事代の総計より高いものだった。毎週木曜日はチェンの休みの日だったので，リリーは昼に特別な料理を用意した。アヒルか豚の料理だった。チェンが食べるように低い声で言っても，女たちはご馳走をつまむだけで，チェンはそれを，食べ物をはさむ物というよりてこのようにして箸を使い，手に持った椀からがつがつと飲み込んだ。

今までにリリーは 393 ポンド貯め，お札を丸めて食料品室にある古いお茶の缶にしまっていた。彼女はそのお金の最善の使い道について，明確ではないにしてもしっかりした計画があって，そんな香しい蓄えがあることを秘密にしていた。リリーは自分の貯金が増えていくことに甘美な喜びを味わうと共に，お札にジャスミンの香りが染み込んでいくのが好きだっ

た。彼女自身の身体には（彼女の好きなキャメイ石鹸のバラの香りは別として）何の香水の香りもしなかったが，木曜日の料理が時折放つ強烈なにおいを消すために，台所に空気清浄剤のスプレー缶をいつも置いていた。一度，何となくおかしなことをしたくなった時に，ゆっくり脈打っている手首の下側にスプレーをかけてみたらひどい発疹が出たことがあった。

注

ℓ. 6 ◇ note「紙幣」six £5 notes で「6枚の5ポンド紙幣（＝計30ポンド）」ということ。
ℓ. 10 ◇ suspect ～「～に気づく；～をうすうす感じる」
ℓ. 11 ◇ thrifty「質素な」
ℓ. 19 ◇ muffled「声を殺した〔鈍くした〕」
◇ delicacy「ご馳走」
ℓ. 20 ◇ pincers「ものをはさんでつまむ道具」using … than pincers は，食べ物を箸ではさんで口に持っていくのではなく，箸をてこのように使って皿から直接，口にかき込む様子を表したもの。
ℓ. 21 ◇ pantry「食料品や食器の置いてある部屋」
ℓ. 24 ◇ be impregnated with ～「～が染み込んだ」
ℓ. 26 ◇ combat ～「～と戦う」
ℓ. 28 ◇ nasty「いやな；ひどい」

【2】

解答

（1） **d**　（2） **b**　（3） **b**　（4） **a**　（5） **b**　（6） **a**
（7）「**全訳**」の下線部ⓖ参照。　（8）「**全訳**」の下線部ⓗ参照。
（9） **d**　（10） **a**　（11） repeatedly　（12） so　（13） **a**　（14） **c**

解説

（1） in：*in* a ～ sense（～の意味で）
a He caught me *by* the arm.（彼は私の腕をつかんだ。）
b He is *of* the opinion that you are in the wrong.
（彼は君が誤っているという意見だ（＝ be of the opinion that …）。）
c I bought this watch *for* 200 dollars.（私は200ドルでこの時計を買った。）
d He sees everything *in* terms of money.（彼はあらゆることを金銭の面から見る。）
○ in terms of ～「～に関して；～の点から：～の言葉で」

（2） on〔upon〕：effect *on*〔*upon*〕～「～に対する影響」
a The car went *in* this direction.（その車はこの方向へ走って行った。）
b His lecture made no impression *on*〔*upon*〕the audience.
（彼の講演は聴衆に何の印象も与えなかった。）
c She got angry *for* no particular reason.（彼女は特に理由もなく怒った。）
d The child returned safe *to* their immense joy.
（彼らが大いに喜んだことに，子供は無事に戻った。）
○ to *one*'s ＋感情を表す名詞「…したことには」

（3） **a** conform ～「～を一致させる」

b influence ～「～に影響を与える」

c meditate ～「～をもくろむ」

d resent ～「～に憤慨する」

（4） occasion と collision（衝突）の “s” の発音は [ʒ]。

b dimension [dɪménʃən]「次元」

c pension [pénʃən]「年金」

（5） otherwise *adv.* ①「別な方法で；そうでなく」

②「（接続詞的に）さもなければ」

③「その他の点で」

adj. ④「異なって；違って」

a 「彼は騒々しいが，その他の点では非常にいいやつだ。」③

b 「君は，もし君が言わなかったら忘れてしまっていただろうと思われることを私に思い出させた。」②

c 「賢い者もいれば，そうでない者もいる。」④

d 「彼女はそれは本物だと言うが，我々はそうではないと思う。」①

（6） of enormous value「非常に大きな価値のある」

○ of ＋抽象名詞＝形容詞

enormous という形容詞で修飾されているので，答えは **a**。

a invaluable「評価できないほど非常に貴重な」valuable の強調形。

b unvaluable という語はない。

c valuable「価値の高い；貴重な」

d valueless「価値のない」

（7） ○ Their value lies in their enabling him to …「それらの価値は人が…することを可能にするところにある」

○それら＝ the accomplishments made possible by the retained effects of past experience

○ lie in …ing「…することにある」

○ their は enabling の意味上の主語である。

○ enable O to …「O が…することを可能にする」

○ adjust to ～「～に順応する」

○ present *adj.*「現在の；出席して」

○ circumstances「状況」

○ in（the）light of ～「～を考慮して；～に照らして」

（8） ○ Try to consider …「…ということを考慮してみよ」

○ if a person were left totally unchanged by his experiences and activities「人がもし自分の経験や行動によってまったく変化を受けないままでいるとしたら」〔仮定法過去〕

この条件を受けて，what *would* happen になっている。

（9） unpredictable「予測できない」

a impracticable「実行不可能な」

b indispensable「必要不可欠な」

c irresistible「抑え切れない」

d unforeseeable「予測できない」

(10) **a** commit ～「～（＝罪・過失など）を犯す」

b omit ～「～を省く」

c permit ～「～を許す」

d submit ～「～を提出する」

(11) repeatedly ＝ over and over again「何度も何度も」

(12) 肯定文 , so ＋ V ＋ S「S もまた…である」

cf. 否定文，neither〔nor〕＋ V ＋ S

so would thinking, self-awareness, anticipation of the future, and all art and science「考えることも，自己認識も，未来の予測も，すべての芸術や科学も不可能になる《直訳》→考えることも，自分の存在を意識することも，未来を予測することも不可能で，そしてあらゆる芸術や科学もあり得ないだろう」

(13) deprive A *of* B「A から B を奪う」

a She informed him *of* the result.（彼女は彼に結果を知らせた。）

b He was charged *with* murder.（彼は殺人罪で告発された。）

○ charge ～「～を請求する；～をつけで買う；～を告発する；～を満たす；～に突撃する」

c We must provide *for* the future.（我々は将来のために備えねばならない。）

d I heartily congratulate you *on*〔*upon*〕your success.（成功おめでとう。）

(14) recognizable *as* ～「～と（して）認識できる」〔前置詞「～として」〕

a「ありのままに物事を受け入れよ。」〔様態の接続詞〕

b「女性ではあるが，彼女は勇敢だった。」〔譲歩の接続詞〕

c「彼は外国人だったので，そのように〔そういうものとして〕扱われた。」〔前置詞「～として」〕

d「彼女はお兄さんの学生時代の写真を私に見せてくれた。」〔前置詞「～の時の」〕

全訳

記憶とは最も広い意味で，ある人間の過去が現在に与える影響のことである。その人間は，自分が行い，経験することによって修正され変化させられる。そして，これらの繰り返し起こる変化が，後にその人間が行い，経験することに影響を及ぼす。それらの変化により，人はもしそれらがなかったら成し得ないであろう多くのことを成すことができる。そうなると，過去の経験が引き続き及ぼす影響によって可能になる成果は数多く，多様で，その人間にとって極めて大きな価値を持つ。ⓖそういった成果は，その人間が過去の出来事を考慮して，現在の状況に順応することを可能にするという点で価値がある。

ⓗある人間が自分の経験や行動によってまったく変化を受けないままでいるとしたらどうなるかを考えてみなさい。その人間がどのような人間になるかを想像するのは，ほとんど不

可能に近い。その人間が遭遇する状況はどれも，何度遭遇しようとも未知で，馴染みがなく，予測のつかないものであろう。過ちが取り除かれる見込みはまったくないままに，その人間は繰り返し同じ過ちを犯すだろう。そして新しい成果を生み出すこともない。言語を用いることも，考えることも，自分の存在を意識することも，未来を予測することも不可能で，そしてあらゆる芸術や科学もあり得ないだろう。ひょっとしたら，その人間は，自分を人間として認識させるすべてのものを奪われてしまうことになるであろう。

注

ℓ.1 ◇ refer to ～「～に言及する」

ℓ.2 ◇ modify ～「～を修正〔変更〕する」*cf.* modification *n.*（修正）

ℓ.3 ◇ these persisting modifications affect what he does and experiences on later occasions「これらの持続する変化が，後の機会にその人間が行い，経験することに影響を及ぼす」

○ persist「持続する；固執する」

○ affect ～「～に影響を及ぼす」

ℓ.4 ◇ they enable him to accomplish ～「それら（= these persisting modifications）は，人が～を成し遂げることを可能にする」

◇ much which would otherwise be impossible「さもなければ不可能であるような多くのこと」

○ which は much を先行詞とする関係代名詞。

○ would は otherwise に条件の意味を含む仮定法過去。

ℓ.5 ◇ the accomplishments made possible by ～ are many, varied, and of enormous value to the person「～によって可能になった成果は数多く，多様で，その人間にとって極めて大きな価値を持つ」

◇ retained effects「失われない（で続く）影響」

○ retain ～「～を保つ〔保持する〕；～を記憶しておく」

ℓ.9 ◇ what he would be like：その人がどのようになるか

○ what S is like「Sはどのようなものか」ここでは what ＋主語＋動詞 という語順に注意。

ℓ.11 ◇ with no chance of their ever being removed「それら（= errors）が取り除かれる見込みはまったくないままに」

○ their は being removed の意味上の主語。

ℓ.12 ◇ He would develop no new accomplishments.「彼は新しい成果を生み出すこともないだろう。《直訳》→彼が新しく身に付ける技能は何もないだろう。」

○ accomplishment「達成された物〔事〕；成果；（身に付けた）技能；遂行；達成」

ℓ.14 ◇ possibly「ことによると；ひょっとしたら」文修飾の副詞。

◇ makes him recognizable as a human being「その人を人間として認識させる」

○ make O C「O を C にする」

○ recognizable *adj.*「認識できる」＜ recognize ～ *vt.*

【3】

解答・解説

（1） tiring

「買い物とは疲れる用事になることもある。」

「人を疲れさせる」という意味で現在分詞にする。

（2） refreshing

「川からすがすがしいそよ風が吹いていた。」

「人をすがすがしい気分にさせる」という意味で現在分詞にする。

（3） Dressed

「立派なスーツを着ていたので，彼は非常に成功した人物に見えた。」

＝ As he was dressed in a fine suit

○ prosperous ＝ successful

（4） said

「旅は心を広げるということが言われるのをよく耳にする。」

○ hear O C「O が C されるのを耳にする」

○ broaden ～「～を広げる」

（5） leaving；covered

「潮が引いて，海岸は貝殻で覆われた状態になった。」

○ leave O C「O を C の状態にする」

○ tide「潮の干満」

○ ebb「潮が引く」

（6） quarreling；making

「喧嘩をしている２人の子供は互いにしかめ面をして座っていた。」

○ The two quarreling children〔＝ The two children who were quarreling〕

○ sit …ing「座って…する」

○ make faces〔a face〕「しかめ面をする」

（7） made；breaking

「我々は海岸に当たって砕ける波によって海の泡が作られるのを見守った。」

○ watch O C「O が C されるのを見守る」

○ the waves breaking on the shore ＜ the waves which were breaking on the shore

○ break on ～「～に当たって砕ける」

【4】

解答

（1） **c**　（2） **c**　（3） **d**　（4） **d**　（5） **d**

（6） **b**　（7） **c**　（8） **a**　（9） **c**　（10） **c**

解説

（1）「彼の話を聞くのは面白かった。」

形容詞（interesting）を修飾する副詞用法の不定詞句。主語の his story を意味上の

目的語にとる。

（2）「君は何か書くものを持っているだろうか。」

something を修飾する形容詞用法の不定詞句。

○ write with ～「～で書く」with は‘手段・道具’を表す。

（3）「国際的な麻薬問題を解決するいかなる効果的な計画にも，すべての市民が参加する必要があるでしょう。」

不定詞の形容詞用法（any successful plan を修飾する。）

形容詞的分詞は「進行中」または「同時進行」を表す。「参加する」のと「解決する」は同時進行ではないので **a** は不可。

○ participate in ～ ＝ take part in ～「～に参加する」

（4）「こんなに長くお待たせしてすみません。」

○ keep O …ing「O を…の状態にしておく」

cf. keep O 過去分詞（O を…された状態にしておく）

○ be sorry to have 過去分詞「…したことをすまなく思っている」

※完了不定詞は述語動詞よりも前の時，もしくは完了を表す。

（5）「あの犬に花壇の上を走り回らせておくわけにはいかない。」

We won't have ＋ O ＋ …ing は通例「我々は…を許さない」の意味になる。なお，この用法は主語が 1 人称（I ／ we）のケースに限られる。

cf. I won't have him sitting down to dinner in his overalls. I make him change them.

（＝ I won't〔don't〕allow him to sit down …）

（私は彼が作業着のままで夕食のテーブルにつくのを許さない。着替えさせることにしている。）

（6）「すべてのことを考慮すると，彼女はかなり良い妻である。」

All things considered ＝ If all things are considered

受動態の独立分詞構文。

（7）「ヤング夫人は私が彼女のところに不意に立ち寄っても気にしないだろう。」

○ mind *one*'s …ing「人が…するのを嫌がる」

○ drop in on 人「人の所に立ち寄る」

○ unexpectedly「思いがけなく」

（8）「我々は有名な小説を売ったことをいつも深く後悔している。」

○ regret …ing「…したことを後悔する」

cf. regret to …（遺憾ながら…する）

（9）「キャッシュ・マシーンは私が使う番のほんの直前に作動しなくなった。」

○ stop …ing「…するのをやめる」

cf. stop to …（…するために立ち止まる）

○ turn「順番」

（10）「誰かに紹介されるとすぐに，英国人は握手をするだろう。」

○ on …ing「…するとすぐに」

○ shake hands（with ～）「（～と）握手する」hands と複数形になることに注意。

【5】

解答・解説

（1） too busy to

「彼はとても忙しいので，その会合に出席できなかった。」

○ too ～ to …「～すぎて…できない」

（2） impossible to

「彼がどんなつもりであんなことを言ったのかわからない。」

there is no …ing ＝ it is impossible to …

○ remark「（～についての）所見」

（3） to be fixed

「この機械は修理する必要がある。」

○ need …ing ＝ need to be 過去分詞「…される必要がある」

（4） seeing，seeing，worth seeing

「日光は見てみる価値がある。」

○「…する価値がある」を worth を用いて表現すると次の４通りがある。

It is worth while to ….

It is worth while …ing.

It is worth …ing.

S is worth …ing.

【6】

解答・解説

（1） To make matters

○ to make matters worse「さらに悪いことには」

（2） view to becoming

○ with a view to …ing「…する目的で」

○ cram「詰め込み勉強」

（3） for you to

形容詞用法の to 不定詞に意味上の主語がついた形。

（4） busy preparing

○ be busy …ing「…するのに忙しい」

○ prepare for ～「～の準備をする」

（5） spend，learning

○ spend O …ing「…して O（時間）を過ごす」

○ learn *one*'s own mother tongue「母語を習得する」

【7】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第２版』の参照番号を示す。

（１） much of

○ make A of B「B を A のように思う〔理解する〕」の意味の make。

make much of ～「～を重視する；～を理解する（否定文で）」◆2

make little of ～「～を軽視する；～をほとんど理解できない」◆3

make light of ～「～を軽視する」◆4

make nothing of ～「～を何とも思わない；～をまったく理解できない」◆5

（２） best of

○ make the best of a〔the〕bad job「困難な状況で最善を尽くす」

○ make the best of ～「～を何とかうまく切り抜ける」◆23

（３） most of

○ make the most of ～「～を最大限に活かす」

※短い休暇を「不十分なもの」と考える場合，make the best of ～ も可。◆22

（４） made use〔taken advantage〕

○ make use of ～「～を利用する」◆21

○ take advantage of ～「～を利用する」◆24

（５） rise to

○ give rise to ～「～を引き起こす」◆52

（６） made friends

○ make friends with ～「～と親しくなる」※常に複数形で用いる表現。

cf. change trains（電車を乗り換える）◆35

（７） part in

○ take part in ～ = participate in ～「～に参加する」◆31

（８） little of〔解説（１）参照〕◆3

（９） no notice

○ take notice of ～「～に注意を払う」◆44

（10） take，pride

○ take pride in ～= pride *oneself* on ～= be proud of ～「～を誇りに思う」◆26

（11） prides herself〔解説（10）参照〕

（12） company with

○ keep company with ～「～と交際する」◆36

（13） make sense

○ make sense of ～「～を理解する」◆8

（14） charge of

○ take charge of ～「～を担当する」◆14

（15） better of

○ get the better of ～「～に勝つ」◆39

(16)　help yourself to

○ help *oneself* to ～「～を自由に取って食べる」◆46

(17)　way〔in〕to

○ give way to〔give in to〕～「～に屈する〔譲る〕」◆50

(18)　account of〔into consideration〔account〕〕

○ take account of ～ = take ～ into account「～を考慮する」◆40

○後置された形と考えて，into consideration〔account〕も可。

(19)　to ourselves〔between ourselves〕

○ keep ～ to〔between〕*oneself*「～を人に話さないでおく」◆53

(20)　brought〔drove〕home

○ bring〔drive〕home to A B「A に B を痛感させる」[= bring〔drive〕B home to A]

○副詞の home（十分に）。◆56

2章　総合問題2

問題

【1】

解答

（1）ⓐ **c**　ⓑ **d**　ⓒ **a**　ⓓ **a**　（2）A **b**　B **d**　C **a**　D **b**

（3）3番目：**f**　5番目：**a**　（4）**d**，**e**

解説

（1）

ⓐ 下線部を含む文は「原子力の利用は非常に～である」という内容であるが，本文では従来型のエネルギー源に代わるものとしての原子力の利用について，その現状や問題点が挙げられているので，この controversial は「議論の余地がある；物議をかもす」という意味であると判断できる。したがって，**c**　arguable（異論のある；議論の余地がある）が正解。他の選択肢の意味は次の通り。**a**「繊細な；精巧な；扱いにくい」**b**「複雑な」**d**「感動的な」

ⓑ 下線部を含む文は「代替エネルギーへの依存度は需要の増加によって…されている」という内容であるが，従来型エネルギーの短所を述べた第1段落に続く記述であるから，この heightened は「高められた；増やされた」という意味であると判断できる。したがって，**d**　intensified（強化された）が正解。他の選択肢の意味は次の通り。**a**「減らされた」**b**「正しく理解〔評価〕された」**c**「拡大された；引き伸ばされた」

ⓒ 下線部を含む文は「原子力への政治家や一般大衆の～は概して否定的であった」という内容であるが，次の文でも原子力に対して人々が不安に思っていることが述べられていることから，この perception は「認識；理解」の意味であると判断できる。したがって，**a**　understanding（認識；理解）が正解。他の選択肢の意味は次の通り。**b**「推測」**c**「受諾；支持」**d**「拒絶；拒否」

ⓓ 下線部の uninterruptible は，他動詞 interrupt ～（～（＝人）の仕事の邪魔をする；～（＝事）を中断する）に，「可能な」の意を表す接尾辞 -ible と，否定を表す接頭辞 un- が付いたものであるから，「中断されない」という意味になると判断できる。したがって，**a**　continuous（連続する）が正解。他の選択肢の意味は次の通り。**b**「円形の；循環する」**c**「速い；迅速な」**d**「垂直の」

（2）

A　まず，空所の直前の unlimited が「果てしない；無制限の」という意味の形容詞で，空所に入る名詞を修飾していることを押さえよう。この部分は「it（＝ the nuclear power）はほとんど無限の～を持つ」という意味になるが，ここは原子力の長所を列挙しているところなので，「原子力はほとんど無限にある」とするのが適切。したがって，**b**　reserves（蓄積；（石油などの）埋蔵量）が正解。他の選択肢の意味は次の通り。**a**「基金；資金；財源」**c**「方法；財産」**d**「事情；環境」

B　空所を含む文は「それは多くの科学者が今原子力を…している理由である→そういうわけで科学者の多くは原子力を…している」という意味で，主語の That は前の段落の，再生可能なエネルギー源や化石燃料では増大するエネルギー需要を満たせない，という内容を受けたものであるから，「そういうわけで科学者の多くは原子力が必要だと考えている」という内容になると考えられる。したがって，push for ～ で「～を強く要求する」の意となる **d** が正解。

C　この段落の第１文には「このような（原子力に対する）否定的認識は変化するだろう」とあり，以下はその根拠が述べられている。空所を含む文は「これらの新しい設備も，大衆の安全についての～を考慮に入れている」という内容であるから，空所には **a** concerns（心配；不安）を入れるのが適切。他の選択肢の意味は次の通り。**b**「手数料；負担；責任」**c**「苦痛」**d**「努力」

D　この段落では，原子力発電所に事故が生じた場合の緊急処置について述べられている。空所を含む文は「もし停電になったら，発電所の装置全体の安全が…される」という内容であるから，「安全が保証されなくなる〔問題になる〕」という意味になると推測できる。よって，**b**　threatened（脅かされる）が正解。他の選択肢の意味は次の通り。**a**「保証される」**c**「促進される」，**d**「疑われる」

（３）　まず，カッコの前で主語と述語動詞が示され，カッコの後には that 節が続いていることを押さえよう。この文の主語 This は前述の内容を受けたもので「原子力発電への依存度が高まっていること」を指している。カッコ内の動詞 remembers の主語になり得るものは one しかないので，one remembers というまとまりができる。remember には that 節を目的語として「…ということを思い起こす」という意になる用法があるので，これがカッコの最後にくると考えられ，さらに when one remembers that … とすれば「…ということを思い起こすと」となって文意が通る。残った語の中で This is surprising と続けると「これは驚くべきことである」となるが，さらに残る３語，the，more，all から，ここが ‘all the ＋比較級’（（～のために；～で）かえって〔ますます〕…）の構文になっていることを見抜こう。ここの the は比較級の前に用いて「それだけ；いっそう」という意味になる副詞である。したがって，完成文は，（This is）all the *more* surprising *when* one remembers（that …）（**g － b － f － d － a － c － e**）となる。したがって，３番目は **f**，５番目は **a**。

（４）

a　「新しいタイプのエネルギー源として原子力の利用を評価する人が増えている。」第４段落に「原子力に対して政治家や一般大衆の認識は概して否定的であった」という記述があり，続く第５段落では「このような否定的な認識はまもなく変わるかもしれない」と述べられているが，原子力の利用を評価する人が増えているというようなことは述べられていない。したがって，一致しない。

b　「従来のエネルギー源に代わるものとしての原子力は，21 世紀のいかなる電力需要にも応じられるようになると期待されている。」第１段落で「それ（＝従来のエネルギー源に代わるものとしての原子力の利用）は今ではもっと積極的に考えられるようになっている」とは述べられているが，「21 世紀のいかなる電力需要にも応じられるよ

うになると期待されている」というような内容の記述はない。したがって，一致しない。

c「科学者たちは，化石燃料がこれまでほど温室効果ガスを排出しなくなる方法を開発しようと努力してきた。」第２段落で温室効果ガスを排出する化石燃料について述べられているが，科学者がその排出を減らす方法を開発しようとしているという記述はない。したがって，一致しない。

d「アメリカでは政治家も一般大衆もエネルギー源としての原子力の利用には基本的に賛同していない。」第４段落後半の内容と一致する。

e「アメリカでは新たな原子力発電所が考案されるに至ったが，それらは安全に対する人々の不安を取り除くことになるかもしれない。」第５段落の内容と一致する。

f「これらの新しい発電所の１つの欠点は，操作上のコストが高いことである。」新しい発電所については第７段落で説明されているが，欠点についての記述はない。

g「日本もドイツも，原子力発電所と廃棄物処理に関する問題の解決策を打ち立てることに成功している。」日本やドイツでの原子力の利用については第３段落に簡単な記述があるが，この選択肢の内容のようなことは述べられていない。

したがって，**d** と **e** が正解。

全訳

石炭や天然ガスのような，従来のエネルギー源に代わるものとしての原子力の利用には非常に議論の余地がある。しかし，今ではそれはもっと積極的に考えられるようになっている。多くの専門家によれば，原子力は天然ガスより安く，石炭よりクリーンで安全であり，量もほとんど無限なのである。

代替エネルギーに対する依存度は，エネルギー需要の増大に伴って高まっている。今後50年の間に，世界の電力需要は，電力の節約が進んでも，４倍に達することだろう。太陽熱や風力，あるいは，バイオマスのような再生可能なエネルギーは運用するにはまだ経済的ではないし，必要な量のエネルギーをすべて生産することもできない。また，石炭のような化石燃料は温室効果ガスを排出する。もう１つの化石燃料である天然ガスはそれに比べて温室効果ガスの排出が少ない。しかし，そのエネルギー供給量は，将来の世界的な電力需要の増加に応えるには不十分である。

こういう理由で多くの科学者は原子力を強く要求している。アメリカでは原子炉が商業ベースで操業されるようになって35年になる。現在，アメリカの電力の20パーセント以上は原子力発電所からのものである。日本やドイツなど，他の諸国でも核分裂に頼っている。

これは，アメリカで過去12年間に原子力発電所の新設がなかったということを想起すると，ますます驚くべきことである。原子力に対する政治家や一般大衆の認識は概して否定的であった。発電所の安全と廃棄物処理に対して人々は特に懸念を抱いている。

しかし，このような否定的な認識はまもなく変わるかもしれない。アメリカの原子炉メーカーは科学技術の進歩を反映する新しい発電所を考案した。さらに，これらの新しい発電所は安全に対する一般大衆の懸念も考慮している。

安全に関する問題はバックアップ・システムに関係する。現存するたいていの原子力発電所では，ウラン燃料は水で冷却される。事故の場合には，装置に冷却水を補給するためにバックアップ・システムが必要となる。現在のバックアップ・システムでは，電動ポンプが

使われており，もし停電があると，装置全体の安全が脅かされることになる。

多くの新しい発電所は電動ポンプに依存していない。そこでは，必要となったら，重力によって絶え間なく冷却水が供給される。このような新しい発電所は旧式の半分の大きさであるが，従来の大型の発電所とほとんど同じ経費で電気を供給することができる。

注

ℓ.7 ◇conservation「（資源などの）保護；節約」

cf. conserve ～（～を保存する；～（＝エネルギーなど）を大切に使う）

◇renewable *adj.*「再生可能な；更新できる」

cf. renew ～（～（＝物）を再び新しくする；～（＝健康など）を取り戻す）

ℓ.12 ◇nuclear reactor「原子炉」

【2】

解答

（1） 10代の少女がアイスクリーム店で客のいろいろな注文を１人でさばいているが，どんなに急いでも注文に追いついていない様子。(58字)

（2） 「**全訳**」の下線部ⓑ参照。

別解 そう言うかわりに，私はぐっと我慢して，もう少しで口論になりそうな時によくする，「この子はなぜこんなことを言ってしまうのだろう」という自問をした

（3） 客はこんなに多いのに，店員はあなた１人でてんてこ舞いで，今日はついてないね (37字)

解説

（1） 「誰が」「どこで」「どのような様子か」の３つを含めて，下線部の内容をまとめる。

○「誰が」については，当然，a teen-aged girl（10代の少女）である。

○「どこで」については，冒頭の文に our local ice-cream store に立ち寄ったとあるから，「地元のアイスクリーム店」で，その少女は behind the counter「カウンターの後ろで」働いている。

○「どのような様子か」については，第２文（The place was packed with people …）から，この店が客で込み合っていて，客がいろいろな注文を出していることがわかる。しかも，彼女は alone（１人）であるから，すべての客の注文を１人でさばいている。Though（she was）working as fast as she could（彼女はできるだけ素早く働いているのだが），she seemed to be falling further and further behind（ますます遅れているようだった）ということ。fall behind は「遅れる」の意。

cf. I'm *falling* further and further *behind* the other students.

（私は他の生徒たちにますます遅れをとっている。）

ここでは，客の注文に遅れをとっているのである。

つまり，

○ 10代の少女

○アイスクリーム店

○客→大勢
○店員→１人
○注文に追いつかない
といった情報が入っていればよい。

（２） ○ hold *one*'s tongue「黙る」命令文で用いることが多い。
○ asked myself a question（which）I often raise ～と関係代名詞を補って考える。raise a question は「質問を提起する」。
○ on the brink of ～「今にも～しそうで；～に瀕して」on the point〔edge；verge；threshold〕of ～とほぼ同じ意味。
Ex. She was *on the brink of* tears.（彼女は今にも泣き出しそうだった。）
○ここでの argument は「議論；主張」ではなくて「口論」。
○ Why would she say something like that? は a question I often raise when I'm on the brink of an argument と同格関係。また，Why would she say ～？の would は，wh- 疑問文で使われると，主に「驚き・意外」の気持ちを表す。
cf. Why would he talk like that?（なぜ彼はあんな口をきくのだ。）

（３） この設問の意図は，この場面の状況を文脈から推測できるかどうかを見ることにある。下線部の前後での少女の態度の変化に注目する。すなわち，「私」がこの言葉を言う直前の彼女の様子は，腰に両手を当てて「私」に対して挑戦的であったのに，この言葉の後は，Her hostility melted.（彼女の敵意は消え去った。）とあることから，「私」は彼女に対して同情的な慰めの言葉をかけたのであろうと推測できる。one of those days は，a day when everything seems to be going wrong（何をやってもうまくいかない日；ついていない日）の意で用いられる口語表現であるが，文脈から類推可能。しかし，このレベルの表現は覚えておくに越したことはない。
cf. Yesterday was just *one of those days.*（昨日はついてなかった。）
これを one of these days「近いうちに」（＝ before long；soon）と混同しないように注意。

全訳

私の５歳の息子アンドリューと私は，息子の誕生日会のデザートを買うために，地元のアイスクリーム店に立ち寄った。その店は，手の込んだサンデーやミルクシェイクを注文する客で一杯であった。カウンターの後ろには10代の女の子が１人しかいなかった。彼女はできるだけてきぱきと仕事をしているのだが，次第に注文に遅れをとっているようだった。

やっと彼女が私たちの番号を呼んだので，私はチョコレート・チップ・アイスクリームを３クォート注文した。「３クォートですって！ ３クォートをすくうのがどんなに大変かわかってらっしゃるの？」と彼女は両手を腰に当てて言った。

私は思わず，「あの，失礼ですけどね，ここはアイスクリーム店じゃないんですか」と叫びたくなる衝動に駆られた。ⓑそう言うかわりに，私はじっと黙って，もう少しで口論になりそうな時によくする，「この子はなぜこんなことを言ってしまうのだろう」という疑問を自分に向けた。私はその時，彼女がどんなにか途方に暮れていたに違いないとわかったので，彼女にこう尋ねた。「今日はついてない日だったの？」

彼女から敵意が消え去った。「今朝からずっと休みなしだったの。私１人だけだし，１時には仕事が終わることになっていたのに…」彼女は私たちの注文したアイスクリームを詰めながら，心の中を打ち明け続けた。私たちが店を出る時，彼女は私たちに向かって大きく微笑み，親しそうに手を振ってくれた。

注

ℓ.1 ◇stop at ～「～に立ち寄る」

ℓ.2 ◇be packed with ～「～で満員である」（= be crowded with ～）

◇sundae「サンデー」

果物・ナッツなどを載せ，シロップをかけたアイスクリーム。客は好みでいろいろなトッピングを注文することができる。

ℓ.5 ◇our number「私たちの番号」つまり，注文を受ける順番の番号のこと。

◇quart「クォート」液量の単位。英では約 1.14 リットル，米では約 0.95 リットル。

ℓ.6 ◇hands on hips = with her hands on her hips「両手を腰に当てて」

女性の「何よ」といった気持ちを表す時によく用いる。

◇scoop ～「～をすくう」

ℓ.8 ◇be tempted to …「ふと…したくなる」< tempt O to …「O を …する気にさせる」

◇let loose「ぶちまける」

◇excuse me「失礼ですが」反論したり異議を唱えたりする時の切り出し方。

ℓ.11 ◇overwhelmed「途方に暮れて」< overwhelm ～「～を困惑させる；～を制圧する」

◇must have ＋過去分詞「…したに違いない」

ℓ.12 ◇be supposed to …「…することになっている」

ℓ.13 ◇get off「１日の仕事を終える」

◇unburden *oneself*「悩みなどを打ち明けて心を軽くする」

【3】

解答

（1） **b**	（2） **b**	（3） **a**	（4） **c**	（5） **d**
（6） **b**	（7） **b**	（8） **c**	（9） **d**	（10） **a**
（11） **a**	（12） **e**	（13） **c**	（14） **e**	（15） **e**

解説

（1）「私の英語の先生だと思ったその女性はまったく知らない人だとわかった。」

関係代名詞の格は関係詞節の中での格によって決まる。

The lady turned out to be a stranger.

I thought *her* to be my English teacher.

her なので目的格 whom になる。

○ turn out to be C「C だと判明する」

（2）「来週試験を受ける予定の者を除いて，すべての生徒が宿題をしなければならない。」

○ except those who「…する人々を除いて」

○ be 動詞＋ to …「…することになっている」‘公式の義務’を表す。

d　except for も「～を除いて」の意味を持つが，空所に入る関係代名詞は節内で主語として働くので目的格 whom は不可。

（3）「これが私が昨日あなたに話した辞書です。」

This is the dictionary (which) I told you about yesterday. と関係代名詞が省略された形。

○ tell A about B「B について A に話す」

c　関係詞 that の場合は前置詞を前に置くことはできない。

d　it がなければ正解になる。

（4）「昨夜私が寝たベッドはあまり心地よくなかった。」

○前置詞＋関係代名詞で，関係代名詞（which）が省略され前置詞が後置された形。

b　前置詞の後に関係代名詞 that を置くことは不可。

（5）「飛行機は数時間遅れるかもしれないが，その場合は我々は待っていても無駄だ。」

○ in which case〔前置詞＋関係形容詞＋名詞〕

○ which は The plane may be several hours late を受ける。

○ there is no point in …ing ＝ it is no use …ing「…しても無駄だ」

（6）「グリーン教授は事の成り行きに満足していない。」

○ things are の補語となる先行詞をそれ自体の中に含む what。

（7）「ショパンは，作品が世界的に有名であるが，ここで数曲を書いた。」

○ Chopin's works ＝ whose works

（8）「屋根の見える建物の名前は何ですか。」

関係代名詞 which の所有格 whose。

○ whose roof ＝ the building's roof ＝ the roof of which

（9）「彼は私が今思い出すことのできない題名の本について述べた。」

《直訳》「彼はある本について述べたが，その本の題名を今は思い出せない。」

「何の題名」かというと「本の題名」であり，the title of a book となる。この of a book が a book を先行詞とする関係代名詞 of which になったもの。

(10)「彼は 10 年前の臆病者ではない。」

先行詞 the coward が後続する節の補語に当たる。the coward は形容詞に近い「人の性格」を表しているため，空所に入る関係代名詞として who は不可。なお，空所に入る "X is〔are〕not *the* 名詞 *that* Y was〔were〕." は 1 つの固定化された表現で that は省略可。that の代わりに which は普通用いられない。

(11)「シェークスピアの美しい詩を読んだことがある人で一体誰がそれらの魅力を忘れることができようか（いや，できない）。」

前に疑問詞がある場合は that を用いる。

○ fascination「魅力」

(12)「私は徒歩ではなくバスで行くように言われたので，その忠告に従った。」

関係形容詞（which）の非制限用法。〔＝ and I followed that advice〕

(13)「陰で他人の悪口を言うような人々は避けるがよい。」

○ such A as B「B のような A」

○ speak ill of ～「～を悪く言う」⇔ speak well of ～

○ behind *one*'s back「人のいないところで」

(14) 「うんざりするからといって君が義務を怠る理由がわからない。」

○関係副詞 why（先行詞 the reason が省略された形）

= I don't see（the reason）why〔that〕you should neglect ～

(15) 「新しい単語の意味を理解する最も早い方法は，その単語が見つかる文章や段落の中での使われ方〔配列〕を見ることである。」

関係副詞 where は広い意味で「場所」と考えられる語も先行詞にとる。point（点）；case（場合）；circumstances（境遇）；situation（状況）など。

you find it（= the word）in the sentence or paragraph

a　how to check it「どのようにその単語を照合するか」〔疑問詞 + to …〕

b，**c** は文としては成り立つが，文脈に合わない。

○ however hard you may find it「それがどんなに難しくても」

however = no matter how ‘譲歩’の副詞節を導く。

○ whatever you may look for「たとえ何を探していても」

whatever = no matter what‘譲歩’の副詞節を導く。

d　find out ～（～を見つける）は，単に，物，人を見つける時には使わない。

○ figure out ～「～を理解する」out は副詞。

○ setting「配列」

【4】

A.

解答

（1） That newspaper article is far from accurate.

別解 That newspaper article is anything but true.

（2） This book will give you a clear understanding of Charles Dickens.

別解 This book will enable you to fully understand Charles Dickens.

（3） The sight of the clock told me that I was late.

別解 The sight of the clock made me realize that I was late.

解説

（1） 「～なんてものではない」を否定表現を用いずに表すには，使える表現が自然と限られてくる。far from ～，anything but ～（少しも～ではない）のどちらかを用いることになる。「新聞記事」は newspaper article，「真実の」はここでは accurate や true など。

（2） 「この本を読めば～がわかるだろう」を This book を主語にして表すには，「この本が～についての理解を与えてくれるだろう」または「この本が～をわからせてくれるだろう」と考えて，This book will give you a clear understanding of ～，This book will enable you to（fully）understand ～ とすればよい。

（3） 「時計を見て…を知った」を「時計を見ることが…ということを教えてくれた」と読み換えて，The sight of the clock told me that …とする。あるいは，「…ということ

を気付かせた〔認識させた〕」と解釈して，The sight of the clock made me realize that …とすることも可能。

B．

解答

"If I leave this watch with you, can you fix it by Saturday?"

"No, that'd be a little difficult. I can fix it by Tuesday, though."

別解

"There is something wrong with this watch. Could you repair it by Saturday?"

"I'm afraid it will take a little longer. But I can manage it if you don't mind waiting until next Tuesday."

解説

会話文の和文英訳問題で注意すべきことは，日本文のそれぞれの単語の意味にとらわれて直訳しないということである。それぞれのセリフが発せられている状況を理解して，その状況にふさわしい表現を選ぶことが重要。それぞれの状況で使われる，決まった表現も多いので，日本語の論理だけで英訳すると不自然な英語になることがある。

例えば，「この時計なんだけど」の「けど」は当然，'逆接'の意味ではなく，単なる'話題の提示'である。It is this watch, but …などとは言わない。この文で言いたいことは，「この時計を土曜日までに直してくれるか」ということである。Can〔Could〕you …?, Is it〔Would it be〕possible for you to …? のような'依頼'の表現を使えばよい。もう少し付け加えたければ，「この時計の調子が悪いのだが」や「もしここに預けたら」というような内容を含めてもよい。

○「それはちょっと無理ですね」は，特に読み換えなくてもよいが，「それはちょっと無理」をそのまま It's a little impossible. とはしないこと。a little と impossible とは意味的に矛盾する。「難しい」くらいに考えて，It's〔It would be〕a little difficult. のようにするか，全文の内容から意識して，（I'm afraid）it will take a little longer.（もう少し時間がかかります）のようにする。

○「何とかなります」は，つまり「直すことができる」ということ。I can fix〔repair〕it. でよい。また**別解**のように，「来週の火曜日までには」を「もし来週の火曜日まで待ってもらえれば」のように読み換えてもよい。

C．

解答

（1） My three-year-old son is interested in almost everything and always drives me crazy with questions.

別解 My son, who is three years old, is curious about almost everything and constantly bombards me with questions.

（2） Just yesterday, he wanted to know what an angel looked like and I was at a loss for an answer.

別解 Yesterday, for example, he asked me what an angel looked like, and I was stuck for an answer.

解説

（1）「息子は３歳なんだが」の「が」を，そのまま but としないこと。これはＢでも登場したように，日本語に特有の‘話題の提示’の「が」である。英訳する際には，「私の３歳の息子が」とまとめるか，**別解**のように，my son, who is three years old, …とするのがよい。

「僕を質問攻めにする」は，「質問で自分の頭をおかしくする」と解釈して，drive me crazy のように表すとよい。日本語通りの「（質問などで）攻め立てる」という表現を知っていれば，bombard me with questions とするとよい。

（2）「天使はどんな姿をしているのか」は，what an angel looks like だが，ここでは文全体が過去時制なので，動詞は looked と過去に統一する。

「答えに詰まる」は，be at a loss for an answer，あるいは，be stuck for an answer という表現がここでは合う。

【5】

解答

（1） She pretended ignorance, which made me still more angry（.）

（2） He was betrayed by the man who he believed was his right hand（.）

（3） What is done cannot be undone（.）

（4） He gave the man what little money he had（.）

（5） Take whatever〔what〕measure you think is best（.）

（6） As is often the case with him, he did not show up on time（.）

（7） （We do not envy a good fortune） which we know to be out of our reach（.）

解説

（1） ○ pretend ～「～を装う」

○ ignorance「知らないこと；無知」*cf.* ignorant（無知の）

…，which ～：前文の内容を先行詞として，補足説明をするためにはコンマを用いた非制限用法の which を用いること。

（＝…, and that made me still more angry）

still は比較級を強める副詞。

（2） He was betrayed by the man ＋ he believed he（＝ the man）was his right hand

主格の関係代名詞。

（3） 主語になる名詞節を導く what〔the thing which〕。

これは Shakespeare の *Macbeth* の中の有名な言葉。

（4） ○関係形容詞 what「…するすべての～」

（5） ○関係形容詞 whatever「…するどんな…でも」

○関係形容詞 what「どんな～でも」

（＝ Take any measure（that）you think is best.）

○ measure「手段」

（6） ○ as is often〔always〕the case with ～「～にはよくあることだが」

○主節の内容を先行詞にする疑似関係代名詞 as の用法。

（7） ○ we do not envy a good fortune ＋ we know it to be out of our reach

○ know O to be C「O を C だと考える」

○ out of *one*'s reach「人の手の届かないところに」⇔ within *one*'s reach

【6】

解答・解説

（1） What

「私が困るのは，あの男が鍵を握っていることだ。」

（　　）puzzles me が主部。puzzles の主語が欠けているので，空所には先行詞と主格の関係代名詞の性質を兼ね備えたものがくる。

（2） of which

「これはことわざだが，私にはその意味がわからない。」

This is a proverb ＋ I do not know the meaning of it の of it の部分が，of which になると考える。

（3） when

「我々がこの国を離れなければならない時がやって来る。」

time を先行詞とする関係副詞 when。

○ The time will come when …「…する時が来る」

（4） for which

「君がスキャンダルに巻き込まれた理由を私に教えてくれ。」

Tell me the reason ＋ You got involved in the scandal for the reason の for the reason の部分が for which になったと考える。

【7】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第２版』の参照番号を示す。

（1） put up

○ put up with ～「～を我慢する」（= tolerate ～；stand ～）◆59

（2） catch up

○ catch up with ～「～に追いつく」◆60

（3） come up

○ come up with ～「～を思いつく；～に追いつく」◆61

（4） get〔keep〕，touch

○ get〔keep〕in touch with ～「～と連絡をとる」◆66

（5） into〔in〕contact

○ come into〔in〕contact with ～「～に接触する〔出会う〕」◆67

（6） ended up

○ end up with ～「最後は～で終わる」◆68

（7） up to

○ live up to ～「～に基づいて行動する；～に応える；～の期待に沿う」◆69

（8） looked up to

○ look up to ～「～を尊敬する」（= respect ～）◆72

⇔ look down on ～（= despise ～）◆73

（9） go, with

○ go along with ～「～に賛成する〔付随する〕；～と一緒に行く」◆74

（10） through〔done〕

○ be through〔done〕with ～「～を終える」

「終わりまで；終わってしまって」の意の through。

cf. go through with ～（～をやり遂げる）◆75

get through with ～（～をやり遂げる）◆76

（11） got〔ran〕away

○ get〔run〕away with ～「～を持ち逃げする；～をうまくやってのける」◆78

cf. You'll never *get away with* it!（そうは問屋がおろすものか。）

（12） done away

○ do away with ～「～を廃止する」◆79

（13） go on

○ go on with ～「～を続ける」*cf.* go on …ing（…し続ける）◆80

（14） getting along〔on〕

○ get along〔on〕with ～「～とうまくやっていく；～の仕事がはかどる」◆81

（15） speak ill

○ speak ill of ～「～の悪口を言う」◆82

⇔ speak well〔highly〕of ～（～を褒める）◆83

（16） looking forward

○ look forward to …ing「…するのを楽しみにする」to は前置詞であることに注意。◆84

（17） make up

○ make up for ～「～の埋め合わせをする」◆92

（18） put up

○ put up at ～「～に宿泊する」〔= stay ～〕◆94

cf. put up *with* ～（～を我慢する）◆59

（19） dropped in

○ drop in at 場所〔on 人〕「～にちょっと立ち寄る」◆95

（20） his〔the〕way

○ go out of *one*'s〔the〕way to …「わざわざ…する」◆98

3章　総合問題3

問題

【1】

解答

（1）**c**　（2）**a**　（3）① **a**　② **b**　③ **b**　④ **a**　⑤ **a**
（4）**d**　（5）**b**

解説

（1）「空所ⓐを埋めるのに最も適当なものを下から選べ」という設問。第1の判断材料は第1段落の第2文（しかしそれ（＝アメリカ合衆国）は市民が十分な情報に通じている適例ではない。）。第2の材料は空所の後ろにカッコで付け加えられた具体例である。「例えば，大多数の市民は最高裁判所長官の名前を挙げることができないとか，ツチ族とフツ族の違いがわからない，といったことである。」この2点をつなぐ線上にどういう記述が適切であるかと考えれば，**c**「（一般市民がたいてい）事実についていかに無知であるか」が正しい脈絡となることに気づくだろう。その他の選択肢の意味は以下の通り。**a**「いかに変化を受け入れたがらないか」，**b**「いかに民主主義について十分な情報を持っているか」，**d**「いかにたやすく感情に流されるか」，**e**「社会的生活についていかに興味があるか」。

（2）「空所ⓑを埋めるのに最も適当なものを下から選べ」という設問。この段落の第1文では「一般市民は他の人々とのやり取り，つまり対話と話し合いを通じて判断を形作る」と述べられている。後に続く2文は，それを具体的に言い換えたものである。そこで空所を含む文を見てみよう。まず，前置詞句の目的語に当たる what makes sense to them は「彼らに理解できること」という意味である。そこで「彼らは他の人々の考え方を判断する」に，「彼らに理解できること」がどういう副詞句の形で接続すればいいのかを考える。選択肢の意味はそれぞれ，**a**「～に関して」，**b**「～のなすがままに」，**c**「～にかかわらず」，**d**「～のせいで」，**e**「～を支持して」となる。「対話を通じての判断形成」というトピックセンテンスの核心に照らし合わせれば，整合性があるのは **a** ということになる。

（3）「①～⑤の空所のそれぞれに適したものを，下から選べ」という設問。「対話」と「情報」の2者択一なので，それぞれを各空所に入れてみて文脈に合う方を選べばよい。ただ，筆者は factual information というフレーズを繰り返し用いているところから，「情報」には「事実」がぴったりと張り付いていることを念頭に置きたい。では，1つ1つ見ていこう。

① （　①　）の後に「気持ちと価値観に大きく頼っている」という記述がある。少し前では「彼らは何よりも自分たちの気持ちと価値観を考慮する」と「事実と価値観をはっきりと区別しない」という記述があり，「気持ちと価値観」と「事実」が対照的に並べられている。「気持ちと価値観」は一般市民が拠り所にする判断基準であるか

ら，ここは「対話」が適切であると判断できる。

②③（　②　）を含む文の文頭の Of course は次文の But と呼応している。したがって，空所②と③には同じ言葉がくると推定できる。

Ex. Of course he is competent, *but* he is a little too young.

（もちろん彼は有能だが，少し若すぎる。）

ここでは書き手が「対話」の対立軸に据えた「情報」についての見解を読者が当然期待しているはずで，それに応えようと意図したのがこの２文である。以上から，どちらにも「情報」が適切である。

④（　④　）を含む文はセミコロンで区切られている。セミコロンは‘順接’を示すこともあれば，‘逆接・対照’を示すこともある。どちらであるかは文脈で判断するしかない。information stripped of feelings is not the royal road to public judgment；（　　），rich in feelings and values, is. となっているが，is（the royal road to public judgment）と省略された語句を補うと前後関係がはっきりとしてくる。つまり，本来であれば‘not A but B’の構文を使えばよいのだが，But はすでに Of course とセットで使ってしまったので，セミコロンという記号にその機能（逆接・対照）を代用させたということになる。だからここは「対話」が適切となる。

⑤ この段落では「一般市民の判断が健全である理由」を話題にしていることを念頭に最後の２文を検討してみると，judgments through（　　）は近代科学以前のやり方ではあるが現在の知識理論よりずっと有効性が高いということから，空所を埋めるのにふさわしいのは，言うまでもなく「対話」である。

（４）「空所ⓒ及びⓓを埋めるのに最も適当な言葉の組み合わせを下から選べ」という設問。facts と values という名詞を修飾する形容詞のペアはどれかを問われているわけだが，facts と values がどういう評価を受けているかを整理してみる。第３段落第３文には they（= the public）consult their feelings and their values とある。「一般市民」のことを述べる時には，“feelings” と “values” がペアになっていることに注目する。そして，The public doesn't *distinguish sharply between facts and values*, … という１文もある。斜体部分を名詞化すると sharp distinctions between “（　ⓒ　）” facts and “（　ⓓ　）” values になる。（３）の解説でもふれたことだが，専門家は「事実に基づく」情報の重要性を主張するのに対して，一般市民は「気持ち」と「価値観」を多く含む対話を重視すると述べられている。さらには「気持ち」が欠落した情報は判断の最善の拠り所ではないとも説明する。こうした記述をまとめると，「一般市民」は温かい「気持ち」と「価値観」を融合させて「健全な判断」をする傾向があるようである。一方，専門家は「事実に基づく情報の分析」，つまり感情には左右されないで判断すると主張している。そこから，従来型の知識の枠組みは「事実に基づく」=「客観的」，「気持ちが混じる」=「主観的」だという結論が導き出せる。したがって，正解は **d** である。

（５）「この論説文によれば次の文のうちどれが本当か」という設問。第１段落の最後に some factor other than ～（～ではなくある別の要素）というフレーズが出てくる。第２段落以降，書き手が焦点を当てているのはこの「ある別の要素」である。そして

第３段落でそれが「対話」であることが明らかになる。つまり，Dialogue, rich in feelings and values, is the royal road to public judgment. ということである。したがって，正解は **b**「対話は，アメリカの一般市民の判断形成に大変重要な要素となっている。」である。その他の選択肢の意味は以下の通り。**a**「報道機関は世論がいかに重要であるか積極的に宣伝する。」，**c**「アメリカの一般市民はたいてい世論調査について不十分な情報しか得ていない。」，**d**「一般市民は事実に基づく情報を念入りに分析することによって判断に至る。」，**e**「一般市民は事実と価値を区別すべきだとジャーナリストや社会科学者は断固として述べる。」。

全訳

アメリカ合衆国は民主主義がうまく機能している適例である。しかし，情報が十分に市民に行き渡っている適例ではない。私は世論調査分野での 40 年余にわたる経験から，こうだと知っている。これは世論を研究するあらゆる人にとって必ずしも驚くべきニュースだとは言えない。確かに報道機関には周知のことだ。彼らこそ事実に基づいた情報の重要性を，声を大にして主張する中心的な存在だからである。実際，報道機関は一般市民が概して事実についていかに無知であるかを示す世論調査結果を報道することに喜びを見出す。（例えば，大多数の人々は最高裁判所長官の名前を挙げることができないとか，ツチ族とフツ族の違いがわからない，といったことである。）けれども，我が国の民主主義の将来にとって根本的に重要な問題に関して，一般市民は度々，正しくよく考えた上での，そして時には深みのある判断に行き着く。もし無知な一般市民が正しい判断に達することができるとすれば，事実に基づく情報を吸収したり，分析したりするのとは違った，ある別の要素が働いているに違いない。

私の調査が明らかにするところでは，一般市民の判断が事実に基づく情報を念入りに分析した結果であることはめったにない。一般市民は専門家が自分でしたがっている方法だと主張するのとは異なる方法を経て判断を下す。専門家は自分たちの見解は情報，経験そして分析に基づいているのだと主張する。だが，一般市民は別のやり方をしているに違いない。彼らは普通，不十分な情報しか与えられていないし，たいした分析はしないし，たいていの政治的な問題について直接的な経験をほとんど持たない。

長年にわたって私が熟知してきたことだが，一般市民というものは，主として他の人々とのやり取りを通じて，つまり，対話と話し合いを通じて，自分たちの判断を作り上げる。彼らは他人から聞くことと，彼ら自身の確信を比較考察する。お互いに意見を述べ合い，自分たちに理解できることに関して他の人々の考え方を判断する。そして，何よりもまず，自分たちの気持ちと価値観を考慮する。一般市民は事実と価値観をはっきりと区別しない。ジャーナリストや社会科学者は区別するのだが。実際のところ，対話は気持ちと価値観に頼るところが大きい。もちろん情報は大切であるが，気持ちの欠落した情報は一般市民が判断を下す際，最善の拠り所とはならない。対話こそが，気持ちと価値観を多く含んでいるから，最善の拠り所なのである。

ここに一般市民の判断が，たとえ情報は不十分でも，正しく分別があり，賢明ですらある理由を解く鍵の１つがある。私は長い間，我々がこれまで従ってきた知識の理論的枠組み，「客観的」事実と「主観的」価値観とを鋭く区別する方法論には何か重大な不都合があるのではないかと思ってきた。対話を通じて判断に至るのに，一般市民は近代科学以前の認知方

法に戻っている。こうした方法は実際のところ共に生きていくという重要な問題に対して，現在の知識理論よりもずっと有効性が高いかもしれないのである。

注

ℓ. 2 ◇ citizenry「（集合的に）市民；庶民」
ℓ. 5 ◇ drumbeater「（政策・主義などを）声を大にして主張〔支持〕する人」
ℓ. 23 ◇ draw on ～「～に頼る；～を利用する」
ℓ. 27 ◇ amiss *adj.*「具合が悪い；不都合な」
ℓ. 28 ◇ paradigm「理論的枠組み」
◇ razor-sharp *adj.*「カミソリのように鋭い」
ℓ. 29 ◇ hark back「話〔考え〕を元へ戻す；（昔の話に）戻る」

【2】

解答

（1） 写真が絵画に取って代わる時。
（2） ⓑ upon〔on〕 ⓒ for ⓓ as ⓔ into ⓕ for ⓗ in ⓘ in ⓙ of ⓚ with ⓜ to
（3） 写真は美術作品に代わりえないという考え。
（4） 美術家が我々に伝えたいと思う何か。
（5） The more original that discovery is, the more credit we shall give the artist
（6） その美術家だけが発見したもの。
（7） 他の人に伝えたいと思うような独創的な発見をなしえ，かつそれを明確に，効果的に伝え得るだけの技量を持つこと。
（8） If by art we meant a close imitation of nature, photography would replace painting. However, seeing this is not the case, painting, far from being a mere description of what is visible to the artist, is a means by which the artist communicates to us his original discovery.（48 語）

解説

（1） ○ when は関係副詞で，the time はその先行詞。
○「文末重心の原則」を守るため，関係詞節が外置されて（＝文末に移動されて）いる。
（2）
ⓑ ○普通の文に変えると，the majority of artists once depended upon〔on〕the kind of reproductive art（大多数の美術家は，かつて模写美術に類するものに依存していた）となる。the kind of reproductive art が先行詞となり，upon〔on〕が関係代名詞と共に前に出たもの。
ⓒ ○ⓑ の upon〔on〕とあわせて depend upon〔on〕A for B で「B について A をあてにする」の構文になっている。
ⓓ ○ as a matter of fact「実を言うと」予想に反して，意外にもなどの気持ちが含まれることが多い。

ⓔ ○これは，内容をよく考えないと正解できないかもしれない。しかし，deceive A into …ing（A をだまして…させる）を知っていれば簡単，この into は‘結果’を示す。

ⓕ ○ substitute for ～「～に代わるもの」と解してもよいし，adequate A for ～と解しても良い。

ⓗ ○ involve *oneself* in ～「～の中に自分を巻き込む」

○英英辞典には get oneself into a complicated or difficult condition とあり，ここでは「美学の理論を完全に頼らなければならないというやっかいなことになる」という意味。

ⓘ ○ここは the artist when he paints a landscape が句に変えられたものと解してもよいし，artist in ～（～にたずさわる美術家）と考えてもよいが，前者の方が素直である。

ⓙ ○ be true of ～「～にもあてはまる」

ⓚ ○ share A with B「A を B と分かち合う；A を B と共有する」の意。

○ここではAに相当するのが，an observation or emotion。

ⓜ ○ communicate A to B「A を B へ伝える」

○ A に相当するものは，an original discovery of the artist's。

（3） ○ this preference（この選択）とは，写真をとるか，美術作品をとるか，という場合，「野蛮人でも写真を美術作品に代わるものとは思わない」ということ。

○ preference ＜ prefer ＝ choose rather

（4） ○英語で示すと，前の that something「そのあるもの」を受けている。この something は名詞として用いられており，that は指示代名詞。

cf. I saw a *something* in the sky, no bigger than my fist.

（私は空にこぶしくらいの大きさのある物を見た。）

（5） ○ the と more があるから the 比較級～，the 比較級 …の形が予想される。

その上，give と credit があるので，give a person credit（for）となると予想される。前後の関係から，「その発見が独創的であればあるほど，その分だけ我々はその美術家を高く評価する。」という意味になることが考えられる。

（6） ○この communication は「伝達」という意味の抽象名詞ではなく，「伝達すべきこと」の意。

○ここでは an original discovery of the artist's のこと。

（7） 本文最後の２文参照。

（8） 正確な模倣と美術作品の違いを示すこと。

全訳

もし美術が単に自然のさまざまな姿を記録したものにすぎないとすれば，最も正確に模倣したものが，最も満足すべき美術作品ということになり写真が絵画に取って代わる時が速やかにやってくるだろう。現に写真は，かつて美術家の大多数が生活の糧を得ていた種類の模写美術（肖像画及び地形展望図）にすでに取って代わってしまっている。しかし，実のところ，たとえ野蛮人であっても，だまされて，写真が美術作品の適切な代用品だと思うようなことはないだろう。とはいうものの，何故そうなのかは美学の理論を完全に援用しなければ，

説明することは容易ではない。ごく簡単に言えば，美術家が風景を描く場合（そして，このことは，美術家が何をしようともあてはまることなのだが）風景の目に見える姿を描こうとしているのではなく，風景について何かを我々に語りたいと思っているのである。その何かは，我々がその美術家と共にする観察であったり，感動であったりすることもあろうが，それよりは，その美術家が我々に伝えたいと願う美術家自身の独創的な発見であることの方が多い。その発見が独創的であればあるほど，我々はその美術家を高く評価するのである。もっとも，その美術家が伝えたいと思うものを明確に，かつ効果的にする技能を持っていると仮定しての話ではある。

【3】

解答・解説

（1） not less

「私が集めてきた外国切手の正確な数は確かではないが，少なくとも千枚以上である。」

○ at least ≒ not less than「少なくとも」

（2） no less〔fewer〕

「箱の中には9匹もの猫がいた。」

○ as many as ～≒ no less〔fewer〕than ～「～もの」

cats という複数名詞なので many。不可算名詞の場合は as much as となる。

（3） no less

「彼女は彼女の姉と同様に優しい。」

○ quite as ～ as …「…とかなり同じくらい～」

○ no less ～ than …「…同様に～」

（4） **d**

「私は彼と同じくらいしかこの機械を操作できない。」

○ no more ～ than …「…と同様～でない」

（5） **d**

「なるほど，愛は重要だ。だが，お金もそれと同様に重要だ。」

○ no less ～ than …「…同様に～」

○ still「それにもかかわらず」

【4】

解答

（1） **b**　（2） **a**　（3） **a**　（4） **c**

（5） **c**　（6） **c**　（7） **d**　（8） **d**

解説

（1）「イントネーションをほとんど教えない語学課程もあるが，それでもやはり正確に意思を伝達するためには重要である。」

○ none the less「それでもやはり」（= nonetheless（接続副詞））

cf. I love him *none the less* for his faults.（欠点はあるけれどもやはり彼が好きだ。）

○ the（副詞）「それだけ」

a　all the …（比較級）（for〔because〕～）「（～なので）それだけ一層…」

Ex. She is shy but I like her *all the more.*

（彼女が恥ずかしがり屋なので，それだけ一層彼女が好きだ。）

c　none the worse（for〔because〕～）「（～にもかかわらず）少しも悪くない」

Ex. I am *none the worse for* a single failure.（一度ぐらいの失敗ではへこたれない。）

（2）「その子が貧しいからなおさら愛している。」

○ all the more〔比較級〕for ～「～だから一層…」

（3）「彼が大声で話せば話すほど説得力がなくなった。」

○ the 比較級～，the 比較級…「～すればするほど…」

（4）「ジョンはトムよりずっと利口だ。」

○比較級を強める副詞は much；far などがある。

（5）「彼女は怖がっているというより，ひどくいぶかしがっているように見えた。」

○ not so much A as B「A というよりはむしろ B」

（6）「ベイブ・ルースは当時断トツで最も才能ある野球選手だった。」

最上級を強める副詞で，the の前にくるものは by far。

○ **a** のように very で最上級を強める場合は，the very most talented baseball player と the の後にくる。

（7）「50 年前に比べてロシア語を勉強する人は少ないし，ラテン語を勉強する人はなお少ない。」

比較級を強める a lot が入る。本問は people が後続するので，選択肢にはないが much は不可。

（8）「そうだな，彼女はそんなことをしない分別を持つべきだった。」

○ should know better than to …「…しないくらいの分別を持つべきだ」

【5】

解答

（1）less diligence　（2）**a**　（3）**b**　（4）**c**　（5）**d**　（6）**b**

解説

（1）「彼は彼の妹ほど勤勉な労働者ではない。」

He is a diligent worker を，一般動詞を用いて表すと works となり，形容詞 diligent は動詞を修飾する副詞 diligently になるところだが，with があるので副詞と同じ意味を表す ‘with ＋抽象名詞’ にする。

○ not so A as B = less A than B

（2）「暑いと食欲がなくなりがちなので，冬より夏の方が体重は増えにくい。」

後に than が出てくるので，単なる原級の **c**，**d** は不可。文意から less likely（より…しそうでない）を選ぶ。

（3）「よかった。電車がすいてきた。座れるぞ。」

Good. → The train is（　　）crowded now. → I can get a seat. と談話が進ん

でいるので，less が適当。

（4）「彼女は自分の下宿代を払うのがやっとで，まして妹の分までは無理だった。」

○否定文，much〔still〕less …「まして…ない」

○ barely「かろうじて」

（5）「その男は彼女をちらりとも見ずに通り過ぎた。」

○ without so much as …ing「…すらしないで」

（6）「学ぶのをやめる人は死人も同然である。」

○ as good as ～「～も同然で」

【6】

解答

（1） more　（2） **c**　（3） **c**　（4） **b**

（5） (a) such，as　(b) more，than　（6） wisest　（7） number of

（8） **b**　（9） **e**　(10) **a**　(11) **a**　(12) **d**

解説

（1）「彼は学者というよりはむしろ作家である。」

○ not so much A as B ＝ more B than A「A というよりむしろ B」

（2）「その姉妹のうち彼女の方が背が高い。」

○二者の比較を表す場合，比較級に the が付く。

（3）「その国では 1 平方マイルあたり 1,100 人もの（多くの）人々が住んでいる。」

○ as many as …「(「数」について）…もの多くの」

cf. as much as …（(「量」について）…もの多くの）

○ square *adj.*「平方の」

b　so〔as〕many「同数の」

cf. She read five books in *so*〔*as*〕*many* months.（彼女は５カ月で５冊の本を読んだ。）

d　so much as「(not；without を伴って，または条件節で）～さえも」

cf. He can*not so much as* write his own name.

（彼は自分の名前を書くことさえもできない。）

（4）「彼がいつ解雇されるのかさっぱり見当がつかない。」

○ haven't（＝ don't have）the faintest〔slightest；foggiest；first；remotest；least〕idea「皆目見当がつかない」

この表現の場合，米でも haven't を用いることがある。

（5）「あれは私がかつて見た中で最も感動的な映画だった。」

最上級の原級と比較級を用いた書き換え。

（6）「どんなに賢い人であろうとも，時々間違いを犯す。」

even（～でさえ）の意味を含む最上級の用法。

○ no matter how ～ S may be「S がどんなに～であっても」‘譲歩’を表す副詞節。

（7）「彼は私の３倍のレコードを持っている。」

○ X times as … as ～「～の X 倍の…」

○ X times the …（＝名詞）of ～「～の X 倍の…」
この場合レコードの枚数，つまり「数」について述べているので number を入れる。

（8）「彼女は美しいというよりはかわいらしい。」
同一人物の異なった性質や状態を比較する時は，通例は –er 型に規則変化する語であっても more を使う。しかし than 以下の SV（be 動詞）を省略しなければ，-er 形を使える。（= She is prettier than she is beautiful.）

（9）「家にいてパイプを吸いながら本を読んだ方が，映画を見に行くより心地よいと思う。」
○ more comfortable があるので than が続く。
a better が不要。
c prefer を用いる場合は I prefer to stay at home with a pipe and a book rather than（to）go to the cinema. となる。
cf. prefer A to B（B より A の方を好む）

（10）「ここでは平地の２倍も頻繁に雨が降る。」
○ X times as …（＝原級）as ～「～の X 倍…である」

（11）「地球から月までの距離は，地球の直径の 30 倍にほぼ等しい。」
○ X times ～「～の X 倍」
times の前置詞的な用法
cf. Four times five is twenty.（5 × 4 = 20）
cf. X times the …（＝名詞）of ～「～の X 倍の…」
○ be equivalent to ～「～に相当する」
○ diameter「直径」
cf. radius（半径）

（12）「我が国の人口はあなたの国の人口の２倍以上である。」
○（more than）double …（＝名詞）「２倍（以上）の…」
cf. Four is *double* two.（= Four is the double of two.）

【7】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第２版』の参照番号を示す。

（1）（A）consist （B）in ◆99
○ consist in ～「～にある」〔= lie in ～〕
cf. consist *of* ～（～から成り立つ）◆100

（2）（A）consists （B）of 〔解説（1）参照〕◆100

（3）（A）result （B）in ◆101
○ result in ～「～という結果になる」
cf. result from ～（～の結果として生じる）◆102

（4）（A）attend （B）on ◆103
○ attend on ～「～に仕える」
cf. attend to ～（～に注意する）◆104

（5）（A）attending （B）to 〔解説（4）参照〕◆104

（6）（A）corresponds （B）to ◆110

○ correspond to ～「～に相当する」

cf. correspond with ～（～と文通する）◆109

（7）（A）deal （B）in ◆111

○ deal in ～「～（＝商品など）を扱う」

（8）（A）dealt （B）with ◆112

○ deal with ～「～を処理する」ここでは受動態。

（9）（A）agree （B）with ◆113

○ agree with ～「～の体質に合う」

（10）（A）run （B）of ◆117

○ run out of ～「～を切らす」

cf. run short of ～（～が尽きる）◆118

（11）（A）passed （B）away ◆122

○ pass away「死ぬ」die の婉曲表現。

（12）（A）stand （B）by ◆123

○ stand by ～「～に味方する」

（13）（A）stands （B）for ◆124

○ stand for ～「～を表す」

（14）（A）interfere （B）in ◆126

○ interfere in ～「～に干渉する」

cf. interfere with ～（～の邪魔をする）◆125

（15）（A）asked （B）for ◆130

○ ask for ～「～を求める」

（16）（A）succeeded （B）in ◆135

○ succeed in ～「～に成功する」

cf. succeed to ～（～を相続する）◆136

※それぞれの意味の名詞・形容詞形に注意 → success（成功）；successful（成功した）；succession（連続）；successive（続いての）；succeeding（続いて起こる）

（17）（A）apply （B）for ◆140

○ apply for ～「～に申し込む」

cf. apply to ～（～に当てはまる）

（18）（A）apply （B）to 〔解説（17）参照〕◆141

（19）（A）entered （B）into ◆142

○建物など具体的な物に「入る」場合は他動詞の enter を用いるが，本問のように，抽象的な何かに「入る」場合は自動詞の enter を用い，enter into ～ となる。

（20）（A）believe （B）in ◆144

○ believe in ～「～の存在を信じる」